

平成27年度研究成果報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	59	都道府県・ 指定都市名	京都市	研究課題番号・校種名	3（4）中学校
				領域名	E S D
研究課題	<p>新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>（4）E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p>				
ふりがな 学校名（児童・生徒数）	きょうとしりつきがちゅうがっこう 京都市立嵯峨中学校（640人）				
所在地（電話番号）	京都市右京区嵯峨新宮町 63-2（075-871-0533）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=204507">http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=204507</a>				
研究のキーワード	地域連携，総合的な学習の時間，自己有用感，社会参画，E S Dカレンダー				
研究成果のポイント	<p>○E S Dカレンダーの作成により、各教科間のつながりや生徒に身につけさせたい資質・能力を明確にし、共有することができた。</p> <p>○総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しにより、E S Dの視点を意識させて学習に取り組ませることができた。</p> <p>○地域との連携を意識したE S Dに取り組むことにより、生徒の自己有用感を高めることができ、社会参画への意識を高めることができた。</p>				

## 1 研究主題等

### （1）研究主題

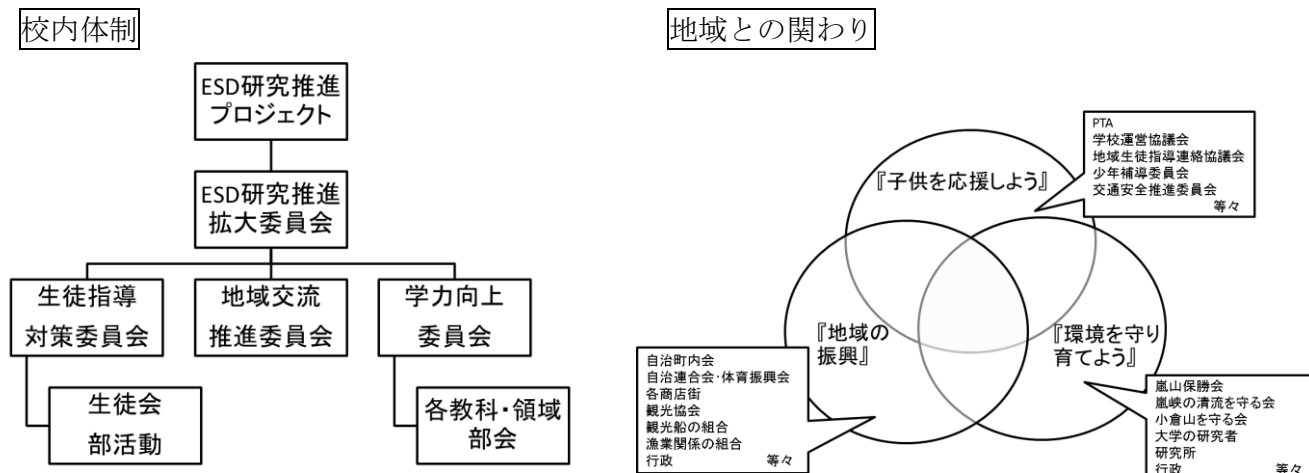
地域との連携によりE S Dを推進する教育のあり方を探究する

### （2）研究主題設定の理由

本校では従前より、校区である嵯峨嵐山の豊かな自然を生かして環境教育に取り組んできたが、ESD という枠組みから教育課程を整理し直すことで、より今日的な課題に対応するために必要な資質・能力を生徒達に身につけさせたいと考えた。

本校教育がもっとも大切にしていることは、生徒一人一人の自己有用感の育成である。自己有用感とは人との関わりを通して生まれ、体験を通して獲得される感情である。そこで、生徒が人と関わる場を「地域」に設定し、地域社会の中で他者とともに活動し、親や教師以外の大人からも認められることで、生徒達が自己有用感を得て社会参画への意欲が向上すると考えた。さらに、日本有数の観光地の一つである地域にとっても、中学生の活躍が地域の活性化や観光振興の一助となることを期待できる。このように地域と学校が互惠関係を築きながら連携し、ともに協働して子どもを育てていく、そのような教育活動・教育課程を模索すべく本主題を設定した。

### (3) 研究体制



### (4) 2年間の主な取組

平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な学習の時間」のカリキュラムの再考（ESDの視点を取り入れ整理）</li> <li>・校内研修会（研究の方針についての共通理解）</li> <li>・校内授業研修会①</li> <li>・生徒アンケート実施</li> <li>・校内授業研修会②</li> <li>・環境省主催ESD研修会参加</li> <li>・校内研修会（ESDカレンダー作成について）</li> <li>・ESDカレンダー作成</li> <li>・ESDの視点を取り入れた学習指導例作成</li> </ul>
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ESDカレンダーの共有および修正</li> <li>・ESDの視点を取り入れた学習指導例の共有および追加・修正</li> <li>・校内研修会（研究仮説の共通理解）</li> <li>・第1回生徒アンケート実施</li> <li>・校内授業研修会①</li> <li>・国立教育政策研究所より担当調査官を招いての校内ESD学習会</li> <li>・第2回生徒アンケート実施</li> <li>・校内授業研修会②</li> <li>・本校教育研究発表会の開催</li> </ul>

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ①ESD カレンダーの作成

各教科等と総合的な学習の時間とのつながりを可視化し、つきたい資質・能力を明確にした。

#### ②総合的な学習の時間のカリキュラムの見直し

総合的な学習の時間のカリキュラムを整理し、学びのつながりを明らかにすると同時に、身につけさせたい資質・能力を規定した。また体験的な学びを通して育まれる自己有用感を社会参画への動機付けとなるようなカリキュラム作成に取り組んだ。

### ③よりよい地域連携の在り方の検討

地域という場で生徒の体験的な学びが創出されるとともに、地域にとっても学校にとっても有益となる連携の在り方について検討した。

### ④生徒の変容の調査

生徒の資質・能力の変容について、質問紙調査と記述分析により調査した。

### ⑤ESDの視点を取り入れた授業のための工夫・改善

校内研修会においてESDの概念について共通理解をするとともに、年2回の校内授業研修会において、指導方法や教材の工夫について研修を深め、授業力の向上を目指した。

## (2) 具体的な研究活動

### ①ESDカレンダーの作成

各教科等と総合的な学習の時間とのつながりを可視化するとともに、それぞれの教科等で身につけさせたい資質・能力を明確にするために3年間のESDカレンダーの作成に取り組んだ。また、各教科等におけるESDの視点を取り入れた学習指導例の作成にも取り組み、指導方法や学習形態、教材の工夫について研究した。

### ②総合的な学習の時間のカリキュラムの見直し

本校のESDカレンダーの核となる総合的な学習の時間のカリキュラムを見直すことにより、3年間を通じて課題に出会い、深め、発信するという学びのつながりを明らかにした。また、総合的な学習の時間を通して身につけさせたい資質・能力を規定し直し、内容とともに資質・能力の観点からも各教科等とのつながりを再考した。また縦割りでの学習活動を設定することにより人とのつながりが生まれるよう工夫した。

総合的な学習の時間の各単元では、学習課題を地域に関連づけ、本物に触れ、他者との出会いを通しての学びの深まりを追求した。また、一つ一つの学習の過程で小さな成功体験を積み重ねることにより、生徒の自己有用感が高まるよう工夫した。そして、「自分たちの行動が地域社会に一定のインパクトを与えることができる」と感じさせるようなカリキュラムをデザインすることにより、生徒が将来的にも社会参画への意欲を持ち続けられることを目標とした。

### ③地域との関わり、地域活動への参加

総合的な学習の時間や教科等の取組の中で、地域への協力を依頼するとともに、地域からの提案を積極的に受け入れ、地域の景観・環境問題、地域振興、地域行事の活性化に関する活動へ生徒・教員ともに積極的に参加した。地域との関わりの中で、学校と地域がよりよい互惠関係を構築していけるような地域連携の在り方について検討した。

### ④生徒の変容の調査

生徒の資質・能力の変容について、質問紙調査により活動の事前・事後の量的変化を調べた。また各教科等での取組に対する自由記述の分析・解釈により質的な変容も調査した。

### ⑤ESDの視点を取り入れた授業のための工夫・改善

校内研修会においてESDの概念について共通理解をするとともに、年2回の校内授業研修会において、指導方法や学習形態、教材の工夫について教科を超えて研修を深めた。研究授業をするにあたり、教科担当者全員で指導案作成に取り組むなど、教科会の充実を図り、授業力の向上を目指した。また、総合的な学習の時間と教科等での学習との関連性を見だし、資質・能力でのつながりを意識した授業づくりについて研究した。

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

- ESD カレンダーを作成しカリキュラムを視覚化することにより、各教科間のつながりおよび教科と総合的な学習の時間とのつながりがより明確になった。また作成する過程で各教科等の学年間のつながりも確認することができた。これにより従来は経験則に頼りがちであった教科間のつながりについての意識を教員間で共有することができ、ベテラン教員だけでなく若手教員もつきたい資質・能力を意識して授業を行いやすくなった。
- ESD という枠組みの中でつきたい資質・能力を共有しながら授業改善に取り組むことができ、同一教科の教員同士だけではなく、他教科・他学年の教員とも課題を共有しやすくなった。また教科会の充実などにより同僚性の向上を実感する教員が増えた。
- 総合的な学習の時間のカリキュラムを見直すことにより、3年間の学びのつながりが明確になった。またそれとともに生徒たちには社会参画をする意識を持たせるといふ、より ESD 的な視点を取り入れて学習に取り組ませることができた。
- 地域と連携した ESD への取組に関して、地域に協力を依頼する際に学習を通して生徒に身につけさせたい資質・能力を学校と地域の双方が共有できるようになった。その結果、学校と地域が同じ目線に立って生徒の育成に携わることができた。
  - ・総合的な学習の時間の取組の事前・事後の質問紙調査の結果より、生徒が体験的な学びを通して自己有用感を高めていることを確認することができた。この結果は、総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しが効果的に生徒の資質・能力の育成に機能し、本校の教育目標の実現に有効であったことを示唆している。

#### (2) 課題

- 中学校における ESD の教育実践が比較的少ないこともあり、いくら研修会を重ねても ESD の概念を理解すること困難を感じる教員も少なからず存在した。よりわかりやすく ESD の概念を伝える方法を十分に検討できなかった。
- 各教科等と総合的な学習の時間とで共有した資質・能力が各教科の学習の理解や定着にどの程度効果的であったのかを十分に吟味することができなかった。また、総合的な学習の時間における体験的な活動を言語活動につなげることも十分だったとは言えず、今後は体験を言語化することにより思考力や表現力の伸長を目指していきたい。
- ESD の視点から身につけさせたい資質・能力の評価に関して、質問紙調査や生徒の記述の解釈という手法以外の方法を見付けることができなかった。質問紙調査や生徒の記述分析には大変時間と手間がかかる。今後はより実用的でわかりやすい評価方法を開発していきたい。
- 地域をフィールドにした学習活動は、天候や自然災害などに左右されやすく、カリキュラム通りに展開できなくなった年もあった。カリキュラムには柔軟性を持たせる必要を感じた。また、打ち合わせなどの時間を確保するのが難しく、双方の負担感が依然大きいことは否めない。

#### (3) 指定期間終了後の取組

今後も ESD カレンダーの見直し・改良を続けて教育活動を充実させるとともに、各教科の指導力向上・授業改善、とりわけ思考力・表現力の伸長を目指したい。また生徒の社会参画への意識については卒業後の追跡調査にも取り組みたい。さらに、地域とのよりよい連携の在り方については地域と学校の互惠関係を保ちつつ今後も発展させていきたい。